

# 事業実績評価(平成 30 年度分)

## <掲載事業について>

No.	事業名	区分
1	健(検)診体制の充実と医療費適正化の推進	総合計画 3-7-(2)
2	安全・安心な学校づくりの推進	総合計画 4-2-(1)
3	教職員の指導力向上の取組の充実	総合計画 4-2-(5)
4	地域資源のブランド創出・魅力向上	総合計画 5-3-(2)
5	総合計画の進行管理	総合計画 共-1-(1)
6	適正な受益者負担と公有財産の管理	総合計画 共-2-(2)
7	魅力ある情報発信	総合計画 共-3-(1)
8	市民の参加・参画機会の充実	総合計画 共-3-(2)
9	まちづくりの担い手育成	総合計画 共-3-(3)
10	情報セキュリティ体制の強化	総合計画 共-4-(2)
11	一圏域応援ステーションー 穂積駅圏域拠点化構想推進事業	総合戦略
12	公共交通広域化による穂積駅圏域拠点化構想推進事業	総合戦略

## <自己評価の選択肢について>

高い	目標達成に非常に効果的であった
↑	目標達成に相当程度効果があった
中	目標達成に効果があった
↓	目標達成に効果がなかった
低い	目標指標無し
-	その他

瑞穂市

基本目標 3 心が通う助け合いのまち

⑦医療・健康

諮問事業(H30年度実施分)

(2) 健(検)診体制の充実と医療費適正化の推進

所管 健康推進課

重点施策該当	○	まち・ひと・しごと創生総合戦略該当	基本目標1-(4)健康づくりの推進					
施策の内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>若い年齢からの健康診査を実施し、生活習慣病を予防する生活改善を支援します。</li> <li>がんを早期に発見し、早期に治療を開始できる体制を整備します。</li> </ul>							
主な事業	<ul style="list-style-type: none"> <li>●若年層健康診査の実施【創】【重】</li> <li>●特定健康診査、特定歯科健診、人間ドック助成事業、健やか健診の実施</li> <li>●がん検診事業</li> </ul>							
年度別実施計画	30年度(実績)	事業費(千円)	31(R1)年度(計画)	事業費(千円)	32(R2)年度(計画)	事業費(千円)		
	<ul style="list-style-type: none"> <li>●goodライフ健診(若年層健康診査)の継続</li> <li>●goodライフ健康セミナーと病態別セミナーの開催(生活習慣病予防の支援事業)・指導用機器(大型ディスプレイ)の購入</li> <li>●がん集団検診ウェブ予約の開始</li> </ul>	5,735 774 0	<ul style="list-style-type: none"> <li>●goodライフ健診(若年層健康診査)の継続</li> <li>●goodライフ健康セミナーと病態別セミナーの開催(生活習慣病予防の支援事業)</li> <li>●がん集団検診ウェブ予約の開始</li> </ul>	5,743 84 1,904	<ul style="list-style-type: none"> <li>●goodライフ健診(若年層健康診査)の継続</li> <li>●goodライフ健康セミナーと病態別セミナーの開催(生活習慣病予防の支援事業)</li> <li>●がん集団検診ウェブ予約の継続</li> </ul>	5,575 84 1,048		
目標指標		単位	H27(基準)	H28(実績)	H29(実績)	H30(実績)	R2(目標)	R7(目標)
若年層健康診査受診者数【創】		人	474	1,138	792	700	800	1,000
特定健康診査受診率【創】		%	46.2	46.0	46.0	45.9	60.0	60.0
自己評価	目標達成に相当程度効果があった	健康診査を受ける機会がない若い世代のためのgoodライフ健診の受診者は20歳代201人、30歳代499人、計700人であった。受診者の内、2年連続受診率は51.0%であったことから、毎年受診で医学的データを蓄積し自身で健康管理を行っている事が期待できた。事後指導については総合判定「要指導」の内、「肥満、血圧、血糖値」または「脂質検査」にて要指導判定となった159人の内49人に事後指導(生活改善支援)を行った。また、要医療判定者への受診勧奨通知を兼ねた追跡調査により22.6%の受診を確認した。よって、健康について自己管理できる若者の育成にかかる健康意識啓発と、早期受診及び生活改善に役立つ支援の実践ができた。						
外部評価	目標達成に有効であった	コメントは別紙のとおり						

総合計画等評価審議会 評価結果

事業	総合計画	健(検)診体制の充実と医療費適正化の推進		担当課	健康推進課	
	評価	有効であった	10件	83%	評価 まとめ	有効であった
		有効とはいえない	2件	17%		有効とはいえない
コメント	欠席	2件				
	良かった点	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ワンコインは魅力的だと思う</li> <li>・若年層への働きかけ、セミナー等、良い企画と思う</li> </ul>				
	悪かった点	<ul style="list-style-type: none"> <li>・受講率増加へのアクションが弱い。啓発活動をもっと検討すべき</li> <li>・PR方法に検討の余地あり</li> </ul>				
	提案・要望点	<ul style="list-style-type: none"> <li>・健康に対する意識を若いうちから持つことで、早期治療や予防につながり、医療費の適正化に有効である</li> <li>・他部署との連携も含め、受診率を高める施策の継続が必要</li> <li>・ターゲットが幅広いため、若い世代の節目検診に重点を置き、受診率向上をしてはどうか</li> <li>・要指導者への指導にも一層注力してほしい</li> <li>・がんの集団検診の取組も推進を強めたほうが良い</li> <li>・若年層の中でも、乳幼児がいるかた、障がいのあるかたなどにも受診しやすい支援を</li> </ul>				
	主な質疑とそれに対する回答	<ul style="list-style-type: none"> <li>・若年者のターゲットをどう絞って進めているか ⇒一度受診された方が翌年度も受診するよう連続受診を第一ターゲットとし、継続受診の体制をつくるため、結果の返し方や説明の仕方に重点を置いている。また、初年度の20歳を第二ターゲットとし、成人式の際の検診アピールやグッドライフ検診啓発グッズを配布している。</li> <li>・啓発活動等について過去のことも含めて教えてほしい ⇒成人式の時に案内チラシを配布している。また、乳幼児健診に来る母親あてに案内チラシを渡したり、保健センター等で受診勧奨する掲示物を作成したり、医療機関等に協力をいただいたり、広報紙への掲載をしたりしている。</li> </ul>				

基本目標 4 夢あふれ希望に満ちたまち

②学校教育

諮問事業(H30年度実施分)

(1) 安全・安心な学校づくりの推進

所管 | 学校教育課

重点施策該当	○	まち・ひと・しごと創生総合戦略該当	-					
施策の内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>すべての児童生徒が、安心して楽しい学校生活が送れるよう、生命を守る防災教育を推進します。</li> <li>いじめの根絶等 인권教育を推進します。</li> <li>自立と共生を目指す特別支援教育、不登校の未然防止、教育相談の充実等による学校支援体制を一層充実します。</li> </ul>							
主な事業	●いじめの根絶等 인권教育の推進事業【重】							
年度別実施計画	30年度(実績)	事業費(千円)	31(R1)年度(計画)	事業費(千円)	32(R2)年度(計画)	事業費(千円)		
	●避難訓練の実施	0	●命を守る訓練の実施	0	●命を守る訓練の実施	0		
	●学級集団アンケートの実施	3,506	●学級集団アンケートの実施	3,619	●学級集団アンケートの実施	3,619		
	●特別支援コーディネーターや教育相談担当者研修	0	●特別支援コーディネーターや教育相談担当者研修	0	●特別支援教育コーディネーターや教育相談担当者研修	0		
	●適応指導教室の運営	244	●適応指導教室の運営	243	●適応指導教室の運営	243		
目標指標		単位	H27(基準)	H28(実績)	H29(実績)	H30(実績)	R2(目標)	R7(目標)
		-	-	-	-	-	-	-
自己評価	目標達成に効果があった	<ul style="list-style-type: none"> <li>各学校において、不審者対応、自然災害など目的に応じた命を守る訓練を3回以上実施した。そのことにより、避難方法や避難時の留意点を具体的に学ぶことができた。</li> <li>Hyper-QU検査を年2回実施した。結果を児童生徒理解や個に応じた支援、人間関係づくりに生かすことができた。</li> <li>年間に特別支援教育担当者研修を3回、適応指導教室担当者会を4回実施した。特別に支援を要する児童生徒への適切な支援の在り方について意見を深め、実践にいかすことができた。</li> <li>教育相談担当者研修を年3回実施した。不登校の児童生徒・保護者への支援の在り方について学び、全校体制での取組を推進できるようにした。適応指導教室については、個に応じた支援をすることにより、5人の通室生が登校に至った。</li> </ul>						
外部評価	目標達成に有効であった	コメントは別紙のとおり						

総合計画等評価審議会 評価結果

事業	総合計画	安全・安心な学校づくりの推進		担当課	学校教育課
評価	有効であった	8件	67%	評価 まとめ	有効であった
	有効とはいえない	4件	33%		有効とはいえない
	欠席	2件			
コメント	良かった点	<ul style="list-style-type: none"> <li>命を守る訓練は非常に工夫されている</li> <li>細かな指導方針及び取り組みであり、教員の成果度も高く良好である</li> </ul>			
	悪かった点	<ul style="list-style-type: none"> <li>取り組みや成果が見えにくい(目標指標がないため評価が難しい)</li> <li>アンケート結果を公表も含めオープンデータとして有効活用し、住民理解を得られるよう推進すべき</li> <li>特別に支援を要する児童生徒への適切な支援の在り方について、又適応指導教室に通う生徒について、家庭との連携の具体案が必要</li> </ul>			
	提案・要望点	<ul style="list-style-type: none"> <li>子どもたちが本当に安心や安全を感じられるようになってきているのかもあわせて調査できるとよい</li> <li>集団アンケートの活用、精度の検証等が必要</li> <li>特別支援教育コーディネーター及び教育担当者の研修の継続実施及び指導の徹底を</li> <li>いじめ根絶等 인권教育の推進</li> <li>更なる教員一人ひとりの取り組み、子どもとの向き合いをお願いしたい</li> </ul>			
	主な質疑とそれに対する回答	<ul style="list-style-type: none"> <li>アンケートの評価は第三者が関与した評価か ⇒評価は学級担任の意識調査なので、第三者の評価は入っていない。</li> <li>実績として、いじめが『あった』『なかった』の評価は ⇒直接このアンケートによっていじめの有無が判定されるものではない。</li> <li>アンケートの結果をどのように活用し、どのように評価しているのか ⇒教員を集め、分析方法についての研修を、講師を招いて行っている。それを受け、教師が分析結果をふまえるように実践をしていくかを各校で考えていく。</li> </ul>			

基本目標 4 夢あふれ希望に満ちたまち

②学校教育

諮問事業(H30年度実施分)

(5) 教職員の指導力向上の取組の充実

所管 | 学校教育課

重点施策該当	○	まち・ひと・しごと創生総合戦略該当	基本目標1-(3)教育力の向上					
施策の内容	・若手教員をはじめとする研修事業や相談事業等により、教職員の資質向上を図り、教育指導体制を一層充実します。							
主な事業	●教員研修事業【重】 ●教員に対する相談事業							
年度別実施計画	30年度(実績)	事業費(千円)	31(R1)年度(計画)	事業費(千円)	32(R2)年度(計画)	事業費(千円)		
	●教職員研修の実施	520	●教職員研修の実施 ●教員に対する相談事業	○	●教職員研修の実施 ●教員に対する相談事業	○		
目標指標		単位	H27(基準)	H28(実績)	H29(実績)	H30(実績)	R2(目標)	R7(目標)
【全国学力テスト(質問紙調査)】授業内容がよく分かると思える児童生徒の割合【創】小6		%	86	83.6	85.2	87.3	90	95
【全国学力テスト(質問紙調査)】授業内容がよく分かると思える児童生徒の割合【創】中3		%	66	66.7	74.5	77.4	70	75
自己評価	目標達成に効果があった	・若手研修を経験年数により細分化して実施した。また、「2,3年目研修」「4,5年目研修」については、悉皆研修から希望研修に変更したことで、受講者数は減少したが、取組姿勢が主体的になり、研修参加者の指導力の向上を図ることができた。 ・役職、分掌に応じた職務研修は、日々の実践につながる研修を内容を工夫して実施し、指導力向上を図ることができた。						
外部評価	目標達成に有効であった	コメントは別紙のとおり						

総合計画等評価審議会 評価結果

事業	総合計画	教職員の指導力向上の取組の充実		担当課	学校教育課
評価	有効であった	11件	92%	評価 まとめ	有効であった
	有効とはいえない	1件	8%		有効とはいえない
	欠席	2件			
コメント	良かった点	・市内の学校が若手教員の比率が高いことで良い意味で危機感があり、研修制度の充実が図られている ・若手(初任・直探)研修は、「対象者全員」という方向性が良い ・目標指標が着実に伸びている			
	悪かった点	・他市町との比較検証が必要			
	提案・要望点	・希望研修で受講されなかった教員へのフォローアップを検討してほしい ・研修について、入札での業者選定は辞めたほうがよい ・希望研修の受講率改善への取り組みがあるとよい ・教員のスキルアップが必要(教員相互のスキル向上に配慮) ・希望研修に移行する事により指導力が減退することのないようフロー体制を充実してほしい ・研修を希望しない教職員の理由(考えや現実等)をふまえ、意欲的に研修参加し、意識が向上するような工夫、実践が必要			
	主な質疑とそれに対する回答	・働き方改革の中で『研修を積極的に受けられない』との声も聞こえるが実態はいかが ⇒全て勤務時間内に設定している。子供たちの下校後勤務時間内に終わるようにしている。 ・小学校英語指導力の研修を委託している説明があったが、事業費が0円の理由は ⇒ALTの派遣事業の中に英語の研修について盛り込んでいるため、研修の事業費としては0円で示した。 ・若手研修で、経験年数が経過するにつれ点数が低くなっているが ⇒経験年数が多くなればなるほど負荷の高い研修になること、自分で自分を厳しく判断しているということなどが考えられる。			

基本目標 5 活気あふれる元気なまち

③観光・交流

諮問事業(H30年度実施分)

(2) 地域資源のブランド創出・魅力向上

所管 総合政策課、商工農政観光課

重点施策該当	○	まち・ひと・しごと創生総合戦略該当	基本目標4-(1)観光力の向上、4-(2)地域ブランドの創出・魅力向上、4-(3)移住促進					
施策の内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・特産品である「富有柿」や、市内を横断する「中山道」、「美江寺宿」等を広くPRする等、まちの魅力や認知度を高め、移住や定住につながる地域資源のブランド化を図ります。</li> <li>・歴史探訪ネットワークの形成や歴史文化資源の保全・活用を図ります。</li> </ul>							
主な事業	<ul style="list-style-type: none"> <li>●(仮)地域ブランド戦略推進事業【創】【重】</li> <li>●(仮)瑞穂ブランドに関する情報発信事業【創】</li> </ul>							
年度別実施計画	30年度(実績)	事業費(千円)	31(R1)年度(計画)	事業費(千円)	32(R2)年度(計画)	事業費(千円)		
	●地域ブランド戦略事業	1,162	●地域ブランド戦略事業	2,000	●地域ブランド戦略事業	【調】		
	●市PR用品作成事業	832	●市PR用品作成事業	443【商工農政観光課分】	●市PR用品作成事業	【調】		
	●中山道整備事業	7,233	●中山道整備事業	37,810	●中山道整備事業	【調】		
●市の魅力発信情報サイトの充実	0	●市の魅力発信情報サイトの充実	0	●市の魅力発信情報サイトの充実	【調】			
●美江寺宿場まつり補助	2,000	●美江寺宿場まつり補助	2,000					
目標指標		単位	H27(基準)	H28(実績)	H29(実績)	H30(実績)	R2(目標)	R7(目標)
地域ブランド創出件数【創】		件	2	3	3	4	4	4
瑞穂市の魅力度(アンケート調査で「魅力を感じた」と回答した人の割合)【創】		%	27.4	64.0	55.1	60.7	40	60
自己評価	目標達成に非常に効果的であった	<p>【総合政策課】メディアランナーなどの大型ビジョンモニターを用い、イベントの告知やPR動画の周知を効果的に行った。また、イベント時でのダンス披露やマンボに親しむ展示を行い、まちの新たなブランドの定着をねらった。市内外のかたへプロモーションバッグを配布したり、大型看板を穂積駅に設置したりし、「平均年齢の若さ」「人口増加率」ともに岐阜県No.1のまちをアピールした。</p> <p>【商工農政観光課】美江寺宿の魅力向上のため、県の補助金を活用し、美江寺宿に看板を設置した。小麻紅園の観光魅力度を上げるための改修工事を行うための設計を実施した。また、休憩所に観光をPRするデジタルサイネージを設置した。観光力の向上施策として、美江寺宿場まつりに対し補助金を支出し、市内外から多くの来場があった。</p>						
外部評価	目標達成に有効であった	コメントは別紙のとおり						

総合計画等評価審議会 評価結果

事業	総合計画	地域資源のブランド創出・魅力向上		担当課	総合政策課・商工農政観光課
評価	有効であった	9件	75%	評価 まとめ	有効であった
	有効とはいえない	3件	25%		有効とはいえない
	欠席	2件			
コメント	良かった点	<ul style="list-style-type: none"> <li>・メディアへの広報活動や魅力度アンケートでの数値改善(H29→H30)</li> <li>・若者感覚をPR戦略に取り入れた点に好感もてる</li> </ul>			
	悪かった点	<ul style="list-style-type: none"> <li>・どのくらい市の事が他から認知されたのかが分かりにくい</li> <li>・ブランドの創出のコンセプト及び効果ある施策内容の見直しが必要</li> </ul>			
	提案・要望点	<ul style="list-style-type: none"> <li>・移住につながるブランドを(数ではなく、1つでも素晴らしいと言えるものを)</li> <li>・イメージキャラクター(MIZUHO SWING GIRLS)を活用したPR活動検討願う</li> <li>・YouTubeなどを活用し若者にPRすると良い</li> <li>・地域ブランドの創出には外からの目線が必要</li> <li>・観光として人を呼び込むこと、来た人々がお金を落とす仕組みづくりを検討してほしい</li> <li>・外へアピールする意識の欠如を打破する意識改革が必要</li> <li>・他部署と連携して活気のあるまちづくりをお願いしたい</li> <li>・富有柿をもっとPRするためイベントで、富有柿を使った料理やスイーツをふるまうのはどうか</li> <li>・観光スポットに、わかりやすい地図や外国人のかたでもわかる表示があるとよい</li> </ul>			
	主な質疑とそれに対する回答	<ul style="list-style-type: none"> <li>・瑞穂市から全国に展開していく、というものを作らないといけないと思うがいかが⇒PR動画を活かし、ダンスが瑞穂市のブランドになるよう展開を考えている。</li> <li>・昨年度、一般のマスコミに何が取り上げられたのか、対外的に宣伝になったのは何なのか、あれば教えてほしい。</li> <li>⇒プロモーションバッグやPR動画は、岐阜県の広報協会を經由し全国広報コンクールに出品された。</li> </ul>			

(1) 総合計画の進行管理

所管 総合政策課

重点施策該当	○	まち・ひと・しごと創生総合戦略該当	-					
施策の内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>行政評価及び予算編成と連動した目標管理を実施します。また、プロジェクトの実行性を高めるための進行管理体制を構築します。</li> <li>市民の意識調査など定期的に実施します。</li> </ul>							
主な事業	●瑞穂市第2次総合計画推進事業【重】							
年度別実施計画	30年度(実績)	事業費(千円)	31(R1)年度(計画)	事業費(千円)	32(R2)年度(計画)	事業費(千円)		
	<ul style="list-style-type: none"> <li>総合計画等評価審議会</li> <li>アンケート調査の実施</li> <li>計画の評価、検証、見直し作業の実施</li> <li>必要に応じた各種計画改定</li> </ul>	1,092	<ul style="list-style-type: none"> <li>総合計画等評価審議会</li> <li>アンケート調査の実施</li> <li>計画の評価、検証、見直し作業の実施</li> <li>必要に応じた各種計画改定</li> </ul>	9,395	<ul style="list-style-type: none"> <li>総合計画等評価審議会</li> <li>アンケート調査の実施</li> <li>計画の評価、検証、見直し作業の実施</li> <li>必要に応じた各種計画改定</li> </ul>	1,395		
目標指標		単位	H27(基準)	H28(実績)	H29(実績)	H30(実績)	R2(目標)	R7(目標)
総合計画進捗度		%	-	38.9	44.2	50.2	60	90
自己評価	目標達成に非常に効果的であった	全107項目中、KPI評価指標があるものについての進捗は、R2年の目標60を達成する推移となっている。平成29年度分の、「瑞穂市第2次総合計画」にもとづく10事業及び、「瑞穂市まち・ひと・しごと創生総合戦略」にもとづく2事業について、PDCAサイクルに則って、総合計画等評価審議会へ評価を諮問し啓申を受けた。12事業中11事業が、出席委員の80%以上により「有効であった」とされた。						
外部評価	目標達成に有効であった	コメントは別紙のとおり						

総合計画等評価審議会 評価結果

事業	総合計画	総合計画の進行管理		担当課	総合政策課
評価	有効であった	12件	100%	評価 まとめ	有効であった
	有効とはいえない	0件	0%		有効とはいえない
	欠席	2件			
コメント	良かった点	<ul style="list-style-type: none"> <li>アンケート調査は有効</li> <li>審議会委員から出された意見も参考にしている点</li> <li>進捗度はほぼ目標通りの推移で良い</li> <li>アンケートにより前向きに取り組んでいる</li> </ul>			
	悪かった点	-			
	提案・要望点	<ul style="list-style-type: none"> <li>KPI評価がきちんと次につながる事を望む</li> <li>PDCAサイクルの充分なる対応で常々精進してほしい</li> <li>住民要望事項を挙げてほしい</li> <li>他部署との連携を密にし、取り組みが形になるとよい</li> <li>「市への愛着について」のアンケートに対するコメントはとても大切で必要な市民の声だと思う。ひとりひとりの声に丁寧に考えていただき、市への愛着につなげてほしい</li> </ul>			
	主な質疑とそれに対する回答	<ul style="list-style-type: none"> <li>アンケート結果が進捗管理に対してどのような影響を与えているか ⇒特定の事業の評価をするため結果を集約して数値化している。うち1項目は自由筆記にて『市への愛着』について問うもの。今後の事業に参考となる市民の声が届いており、全ての課で共有している。</li> <li>市民が瑞穂市にすごく魅力を持っている部分があれば聞かせてほしい ⇒穂積駅もあり、交通至便のまちという評価はとても高い。また、豊かな自然もあり大型スーパーもあるバランスのとれたコンパクトシティとの良い評価が多数ある</li> </ul>			

(2) 適正な受益者負担と公有財産の管理

所管 財務情報課

重点施策該当	○	まち・ひと・しごと創生総合戦略該当	-					
施策の内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>公平性や受益者負担に基づき、費用負担の適正化に努めます。</li> <li>公平性や受益者負担に基づく費用負担を適正に実施します。また、未利用地や活用見込みがない土地や建物等を処分、貸付ける等、公有財産の有効活用を推進します。</li> </ul>							
主な事業	●費用負担適正化推進【重】							
年度別実施計画	30年度(実績)	事業費(千円)	31(R1)年度(計画)	事業費(千円)	32(R2)年度(計画)	事業費(千円)		
	<ul style="list-style-type: none"> <li>●公共施設等総合管理計画と連動した費用負担の適正化、及び公有財産の有効活用の周知</li> <li>●不動産業団体を通じて未利用地売却を推進</li> <li>●施設使用料の見直し</li> </ul>	0	<ul style="list-style-type: none"> <li>●公共施設等総合管理計画と連動した費用負担の適正化、及び公有財産の有効活用の周知</li> <li>●不動産業団体を通じて未利用地売却を推進</li> <li>●施設使用料の改定</li> </ul>	0	<ul style="list-style-type: none"> <li>●公共施設等総合管理計画と連動した費用負担の適正化、及び公有財産の有効活用の周知</li> <li>●不動産業団体を通じて未利用地売却を推進</li> <li>●施設使用料の改定</li> </ul>	0		
目標指標		単位	H27(基準)	H28(実績)	H29(実績)	H30(実績)	R2(目標)	R7(目標)
		-	-	-	-	-	-	-
自己評価	目標指標無し	【公有財産の有効活用】森字天王や穂積字領下分等の未利用地の売却ができた。(34,416千円) 【施設使用料の見直し】行政改革推進委員会へ、公の施設使用料の改定案の意見徴収を行い、31年度において条例改正ができる準備を進めた。						
外部評価	目標達成に有効であった	コメントは別紙のとおり						

総合計画等評価審議会 評価結果

事業	総合計画	適正な受益者負担と公有財産の管理		担当課	財務情報課
評価	有効であった	14件	100%	評価 まとめ	有効であった
	有効とはいえない	0件	0%		有効とはいえない
	欠席	0件			
コメント	良かった点	・国や県、市の各部署と連携のとれた事務			
	悪かった点	・施設毎の受益者負担割合の設定(分布)については根拠がやや分かりづらい			
	提案・要望点	<ul style="list-style-type: none"> <li>・市民活動に支障のない負担額設定をお願いしたい(公益性に配慮しつつバランスのとれた設定に)</li> <li>・普通財産の売買は、課内や第三者も含め方向性を決めておくべき</li> <li>・市にとって不用の土地であれば売却等して整理していくべき</li> <li>・施設の稼働率UPも検討した方がよい</li> <li>・増額した施設利用料について収入増の効果も確認し、利用率増加を見込んだ減額も視野に進めてほしい</li> <li>・利用状況に基づいての利用料設定と、利用しやすい工夫、又積極的な市民へのPRも行ってほしい</li> </ul>			
	主な質疑とそれに対する回答	<ul style="list-style-type: none"> <li>・未利用の土地について、公共施設に利用できるもの、不要なものがどれだけあるのか ⇒現在の土地利用としては不要かもしれないが、隣接する土地利用により必要な土地に成り得ることもあるため、一概に必要・不必要ということが言えない</li> <li>・「受益者負担割合の分布」の基準で、誰でも利用する施設の利用負担が大きいが、何か基準があるのか。また、この基準について見直しをかける予定は ⇒目安としての基準であり、実際の利用負担がこの基準通りになってはいないのが現状。近隣市町とのバランスをとりながら金額の設定をしているため見直しがかかることもある。</li> </ul>			

(1) 魅力ある情報発信

所管 総合政策課

重点施策該当	○	まち・ひと・しごと創生総合戦略該当	-					
施策の内容	・若い世代の市政への関心を高めるため、まちづくりや市政に関する情報を積極的に提供する等、市民に伝えるべき情報と市民が欲しい情報とのバランスに留意しつつ、新たな情報提供手段による発信機会を充実します。							
主な事業	●情報発信充実事業【重】(広報みずほ、ホームページ等による情報提供の充実、情報発信に関するガイドライン策定事業)							
年度別実施計画	30年度(実績)	事業費(千円)	31(R1)年度(計画)	事業費(千円)	32(R2)年度(計画)	事業費(千円)		
	●情報提供の充実、発信等に関するガイドラインの策定	0	●情報発信の充実、発信 ●アプリを用いた広報紙の配信	0 837	●情報発信の充実、発信 ●アプリを用いた広報紙の配信	【調】 【調】		
目標指標		単位	H27(基準)	H28(実績)	H29(実績)	H30(実績)	R2(目標)	R7(目標)
広報、ホームページの情報満足度(「満足している」と答えた人の割合)		%	-	35.9	16.7	18.5	20	30
自己評価	目標達成に効果があった	地方創生事業である「穂積駅圏域拠点化構想策定事業」において、FaceBookにて穂積駅を中心とした、街の情報を発信した。 また、平成29年度に更新が停滞していた市の魅力発信サイトでは、朝日大学経営学部の畦地教授の研究室から42記事の提供を受け、「マンボ」・図書館・住民・歴史遺産・郷土の偉人など市の魅力を取り上げた。これにより前回のアンケートよりもポイントが微増したものと考えられる。令和元年度も引き続き畦地研究室と連携を行い、学生の視点による市の魅力発信をしていきたい。						
外部評価	目標達成に有効であった	コメントは別紙のとおり						

総合計画等評価審議会 評価結果

事業	総合計画	魅力ある情報発信		担当課	総合政策課
評価	有効であった	13件	93%	評価 まとめ	有効であった
	有効とはいえない	1件	7%		有効とはいえない
	欠席	0件			
コメント	良かった点	・大学、学生、市が相互にメリットある事業となっている ・アプリを用いた広報紙の発信は大変有効である			
	悪かった点	・「誰」に「どのような情報」を提供するのが不明確			
	提案・要望点	・多言語アプリの活用を他の事務にも広げてほしい(活用の幅を拡げて) ・引き続きHPの満足度UPに努めてほしい ・アプリ自体の告知方法を一層工夫して欲しい ・広報媒体を制作する事が目的(自己満足に)にならないように。市民に「伝える」ことを意識して。 ・情報は、日進“秒”歩であることに留意し、着実に伝えてほしい ・若者に対しての情報提供や啓発に努めてほしい ・市民が気付いていない瑞穂の魅力や、多くの方に広める方法を考えてほしい ・魅力発信のターゲットが誰なのかを明確に。まずは市民への魅力発信が大切ではないか			
	主な質疑とそれに対する回答	・目標指数の「ホームページの情報満足度」はどのようなかたを対象としているか。 ⇒市内在住の18歳以上のかた1,000人を対象に無作為で抽出したアンケート調査をしている ・アプリを用いた広報紙の配信は、どのような市民をターゲットとしているか ⇒対象は、主に日本に来て間もない外国人のかたや、日本語の聞き取りはできないが読むことが難しいというかた等を想定。市内に住む外国籍のかたへ市の情報を平等に配信したくアプリ配信を始めた。			

(2) 市民の参加・参画機会の充実

所管 | 市民協働安全課

重点施策該当	○	まち・ひと・しごと創生総合戦略該当	-					
施策の内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>市民の積極的な参加・参画を促し、市民のアイデアや意見の反映を促進します。</li> <li>市民がそれぞれの立場でまちづくりに関わっていくためのステップアップの仕組みや参加・参画の新たな手法により、若い世代でも参加しやすい環境を整備します。</li> </ul>							
主な事業	<ul style="list-style-type: none"> <li>●まちづくり基本条例推進事業【重】(ガイドライン策定、市民ワークショップ、ワールドカフェ等の開催)</li> </ul>							
年度別実施計画	30年度(実績)	事業費(千円)	31(R1)年度(計画)	事業費(千円)	32(R2)年度(計画)	事業費(千円)		
	<ul style="list-style-type: none"> <li>●参画・協働等ガイドラインの策定</li> <li>●若い世代への参加・参画・協働等の促進</li> </ul>	92	<ul style="list-style-type: none"> <li>●参画・協働等ガイドラインに基づく参加・協働等の促進</li> <li>●若い世代への参加・参画・協働等の促進</li> </ul>	296	<ul style="list-style-type: none"> <li>●参画・協働等ガイドラインに基づく参加・協働等の促進</li> <li>●若い世代への参加・参画・協働等の促進</li> </ul>	【調】		
目標指標		単位	H27(基準)	H28(実績)	H29(実績)	H30(実績)	R2(目標)	R7(目標)
若い世代(40歳以下)の市政への参加・参画割合(審議会・ワークショップ等)		%	-	31.7	34.0	24.0	15	25
自己評価	目標達成に効果があった	市民協働安全課ができ、「まちづくり基本条例」に基づいた市民参画の機会として、小学校区ごとにタウンミーティングを開催した。各校区の地域課題をテーマとしてワークショップを行い、市民と行政が同じテーブルについて、自分のできることを話し合う機会とした。 「市民協働」の理解不足や「ワークショップ」の経験不足など、課題は多々あるが、市民協働は一朝一夕で成し得るものではないので、地道な積み重ねの中で、市民協働の意識の醸成と市民協働の事業化へ繋げていきたい。 タウンミーティングで実施したアンケート結果でも、第1歩としての意味は十分あるものであったので、今後も改善点を見直ししながら実施する。						
外部評価	目標達成に有効であった	コメントは別紙のとおり						

総合計画等評価審議会 評価結果

事業	総合計画	市民の参加・参画機会の充実		担当課	市民協働安全課
評価	有効であった	14件	100%	評価 まとめ	有効であった
	有効とはいえない	0件	0%		有効とはいえない
	欠席	0件			
コメント	良かった点	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域課題を我が事としてとらえる機会としてはとても良い</li> <li>・広く市民の意見を聞く機会を設けている点</li> </ul>			
	悪かった点	<ul style="list-style-type: none"> <li>・参加者が少ない(偏っている)</li> </ul>			
	提案・要望点	<ul style="list-style-type: none"> <li>・いろいろな場所、団体、時間で機会を増やしてほしい</li> <li>・特に若い世代にも参画してもらえよう、より一層PR(広報)を</li> <li>・さらに多くのかたに参加してもらい、多くの課題に一体になり取り組み、市民の意識改革に努めてほしい</li> <li>・タウンミーティングを継続し、ミーティング内容の事業化につなげてほしい</li> <li>・アンケート結果の、悪い意見に目を向け、参加率の増加につながるアクションを起こしてほしい</li> <li>・一人ひとりの声を大切に、フィードバックも大切にしてほしい</li> </ul>			
	主な質疑とそれに対する回答	<ul style="list-style-type: none"> <li>・若い世代を取り入れるため、アンケート結果はどう生かすのか。PDCAにおける方向性も教えてほしい。 ⇒今年度は小・中学生を対象に夏休みの選択課題の1つとしてタウンミーティングへの参加を教育委員会に提案し協力をいただいたところであり、小学生や中学生、子育て世代の方の参加増加を目指している。</li> <li>・タウンミーティングで様々な課題の共有ができたと思われるが、今後の市政にどうフィードバックするか。 ⇒平成30年度においては、アンケートの結果やワークショップで話し合った結果を自治会にフィードバックした。行政側は該当する項目を基に関係各課で振り返りの会を実施している。</li> </ul>			

(3) まちづくりの担い手育成

所管 | 市民協働安全課

重点施策該当	○	まち・ひと・しごと創生総合戦略該当	基本目標2-(1)雇用・勤労者福祉の充実					
施策の内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>多様な市民が地域社会の一員であることを意識し、地域を良くしていくために自らができることを考え、活動することができるような啓発活動を実施します。</li> <li>行政組織として(仮称)協働推進課を設置し、まちづくりに関するセミナーの開催や研修等の事業を実施し、協働への意識向上を図ります。・まちづくりの担い手と連携を進める職員に対し、まちづくり基本条例に関する研修等を実施し協働への意識改革や能力の向上を図ります。</li> </ul>							
主な事業	<ul style="list-style-type: none"> <li>●まちづくり基本条例推進事業【重】(まちづくり活動組織の育成、まちづくり人材バンク、まちづくり人材養成講座)</li> <li>●(仮称)協働推進課の設置 (H29年度事業完了)</li> </ul>							
年度別実施計画	30年度(実績)	事業費(千円)	31(R1)年度(計画)	事業費(千円)	32(R2)年度(計画)	事業費(千円)		
	<ul style="list-style-type: none"> <li>●まちづくりに関するセミナーの開催</li> <li>●まちづくりに関する職員研修実施</li> </ul>	0	<ul style="list-style-type: none"> <li>●まちづくりに関するセミナーの開催</li> <li>●まちづくりに関する職員研修実施</li> </ul>	84	<ul style="list-style-type: none"> <li>●まちづくりに関するセミナーの開催</li> <li>●まちづくりに関する職員研修実施</li> </ul>	【調】		
目標指標		単位	H27(基準)	H28(実績)	H29(実績)	H30(実績)	R2(目標)	R7(目標)
まちづくり人材バンク登録者		人	-	0	0	0	150	300
自己評価	目標達成に効果があった	「まちづくり基本条例」に基づき実施したタウンミーティングで、人材育成研修への参加を呼びかけた。「地域の絆づくりを学ぼう」と題して全4回の研修会を実施し、23人の参加があった。						
外部評価	目標達成に有効であった	コメントは別紙のとおり						

総合計画等評価審議会 評価結果

事業	総合計画	まちづくりの担い手育成		担当課	市民協働安全課
評価	有効であった	14件	100%	評価 まとめ	有効であった
	有効とはいえない	0件	0%		有効とはいえない
	欠席	0件			
コメント	良かった点	<ul style="list-style-type: none"> <li>若い層の参加をふやすために、別の課や団体とも連携して取り組んでいる</li> <li>「人材バンクよりネットワーク」そのとおりでと思う</li> </ul>			
	悪かった点	<ul style="list-style-type: none"> <li>人数が少なかった点を今後検討していく必要あり</li> <li>セミナーへの参加がし易くなる工夫や実施日時を再考すべき</li> </ul>			
	提案・要望点	<ul style="list-style-type: none"> <li>タウンミーティングを基盤に広げてほしい</li> <li>ネットワーク化ができるよう継続して取り組んでほしい</li> <li>まちづくりに関するセミナー受講者が将来まちづくりの担い手となっていくための出口戦略を</li> <li>段階的に人材バンクを進めてほしい</li> <li>必要なのは継続性。同一の参加者が多かったので幅広い参加者を募るべき</li> <li>人材の生きたネットワーク支援をぜひ進めてほしい</li> <li>市民全員がまちづくりの担い手という想いをもっと広める方法や手段を具体的に考え、実践してほしい</li> </ul>			
	主な質疑とそれに対する回答	<ul style="list-style-type: none"> <li>今後の人材バンクの活用の仕方は如何 ⇒市民協働の視点で、人材バンクという形ではなく、地域で生きたネットワークを作る支援をしていきたいと(今後、目標指標の修正も含めて)考えている。</li> <li>若い方へのPRをどのようにしていくか ⇒まずはタウンミーティング自体の参加者を若い世代に広げていくことを第一に考えている。参加いただいた方からネットワークを広げていくことも視野に入れながら進めていく。</li> </ul>			

(2) 情報セキュリティ体制の強化

所管 財務情報課

重点施策該当	○	まち・ひと・しごと創生総合戦略該当	-							
施策の内容	・情報セキュリティ対策やその運用について、専門的知識を持った第三者が客観的に評価を行う「情報セキュリティ監査」を定期的実施します。									
主な事業	●情報セキュリティ対策事業【重】									
年度別実施計画	30年度(実績)	事業費(千円)	31(R1)年度(計画)	事業費(千円)	32(R2)年度(計画)	事業費(千円)				
	●職員研修(E-learning・サーバセキュリティ研修)の実施 ●セキュリティソフトの更新 ●安全管理措置等点検の実施	0 1,446 1,988	●職員研修(E-learning・サーバセキュリティ研修)の実施 ●セキュリティソフトの更新 ●安全管理措置等点検の実施	0 2,424 2,020	●職員研修(E-learning・サーバセキュリティ研修)の実施 ●セキュリティソフトの更新 ●安全管理措置等点検の実施	0 2,469 2,024				
目標指標				単位	H27(基準)	H28(実績)	H29(実績)	H30(実績)	R2(目標)	R7(目標)
情報セキュリティ研修受講率				%	50	59	79	77	70	90
自己評価	目標達成に相当程度効果があった	社会保障・税番号制度として、個人情報保護委員会の立入検査に対応すべく、前年度同様に安全管理措置点検の委託をし、問題点の事前の洗い出しをし、前年の洗い出した事項について取り組み始めた。 今年度、職員研修は、E-Learningの他に集合研修(マイナンバー研修・情報セキュリティ研修)を実施した。そして、パソコンからウイルスが感染したことにより、庁内ネットワーク配下のサーバーやパソコンなどが感染したとの想定で訓練演習を実施。								
外部評価	目標達成に有効であった	コメントは別紙のとおり								

総合計画等評価審議会 評価結果

事業	総合計画	情報セキュリティ体制の強化		担当課	財務情報課
評価	有効であった	14件	100%	評価 まとめ	有効であった
	有効とはいえない	0件	0%		有効とはいえない
	欠席	0件			
コメント	良かった点	・研修、セキュリティソフトの更新、点検の実施が定期的に行われている			
	悪かった点	・目標指標は100%(条件付き)とすべき			
	提案・要望点	・今後も継続的に研修、点検等実施していただきたい ・外部からのリスク(ウイルス感染等)のほか内部のリスク(情報の無断持出)に対しても万全の対策を施してほしい ・Eラーニングの受講率だけでなく、その成果を指数化して目標管理できるとよい ・セキュリティ意識を高めてほしい ・マイナンバーの個人管理についての市民の意識づけはどうか			
	主な質疑とそれに対する回答	・情報セキュリティに関する職員研修が事業費0円の理由は ⇒国の外郭機関が行う情報セキュリティ研修、岐阜県警からのサイバーセキュリティ対策研修、いずれも無料での開催のため ・市役所のなかで情報セキュリティを担当する部署やその人数は ⇒財務情報課で行い、3人の職員が分掌事務を与えられている。専属は2人で、1人は兼務。保守業務は外注し、職場のコンピュータの安定的で確実な稼働に努めている。 ・市役所で扱うパソコンの台数が増える理由は、人数が増えるためか ⇒お見込みの通り職員(臨時職員を含む)の増員によるもの。また、分掌事務によるものも。 ・コンビニで証明書が発行可能だが、仕組みは ⇒コンビニのシステムはマイナンバー等の情報が連携するシステム。基本的にキオスク端末と呼ばれる機械から発行されるもの。直接市役所の情報とはつながっていないが、国の外郭機関とその端末が(データは全て暗号化されたうえで)つながっている。			

一圏域応援ステーションー穂積駅圏域拠点化構想推進事業

所管 総合政策課

重点施策該当	○	まち・ひと・しごと創生総合戦略該当	基本目標2-(2)商工業の活性化					
施策の内容	<p>・多くの方が行き交う瑞穂市の玄関口であるJR穂積駅周辺の活性化を行うため、多様な主体により練り上げられた穂積駅圏域拠点化構想の将来ビジョン”みんなの「心」をつ・つ・む場所 ほづみのエキチカ ～圏域のプラットホームとして ヒト・モノ・コトをつなぐ・つむぐ・むすぶ～」を実現するため、平成31年度までの期間目標を「地域・圏域への認知」と定め、平成29年度を「地域認知の向上と変化のはじまり」と設定、穂積駅の拠点としての認知向上と意識啓発、取組の見える化につながる初動の取り組みを重点的に実施する。</p>							
主な事業	<ul style="list-style-type: none"> <li>●JR穂積駅圏域拠点化構想促進事業</li> <li>●駅周辺市民協働活性化事業</li> <li>●JR穂積駅圏域拠点化PR事業</li> </ul>	H29全体事業費	23,728千円					
		うち交付金対象事業費	20,736千円					
		うち交付金	10,000千円					
年度別実施計画	30年度(実績)	事業費(千円)	31(R1)年度(計画)	事業費(千円)	32(R2)年度(計画)	事業費(千円)		
	●穂積駅圏域拠点化構想推進事業	22,662	●穂積駅圏域拠点化構想推進事業	22,888	●穂積駅圏域拠点化構想推進事業	22,600		
目標指標		単位	H27(基準)	H28(実績)	H29(実績)	H30(実績)	R2(目標)	R7(目標)
穂積駅乗降客数		人	17,606	17,846	18,188	18,480	18,700	19,000(H33)
就業人口・労働力人口		人	25,343(H22国調)	26,730	26,730	26,730	25,000	25,000(H33)
新規出店数		件	0	2	3	5	6	8(H33)
自己評価	目標達成に非常に効果的であった	事業として3年目になり、「ほづみ夜市」、「空きスペースの利活用」等は順調に推移した。「ほづみ夜市」は売上や来場者を伸ばした第4回、道路使用を行った第5回などの実績があり、「空きスペースの利活用」についても利用者は増えた。また、地域住民の方を中心に「駅南金曜日」が立ち上がり、本事業では物品の貸与や駅周辺敷地の使用について支援を行うなど地域へ活性化が浸透する取組みも派生的に生じた。						
外部評価	目標達成に有効であった	コメントは別紙のとおり						

総合計画等評価審議会 評価結果

事業	総合戦略	一圏域応援ステーションー穂積駅圏域拠点化構想推進事業		担当課	総合政策課
評価	有効であった	12件	86%	評価 まとめ	有効であった
	有効とはいえない	2件	14%		有効とはいえない
	欠席	0件			
コメント	良かった点	<ul style="list-style-type: none"> <li>・空きスペースの活用が少しずつ増えてきている</li> <li>・駅前再開発につなげる事業としては有効</li> <li>・教育委員会や商工会など各団体と連携し、夜市やワイワイ会議など多数の事業を実施している</li> <li>・様々な企画、継続されている事が徐々に伝わっていると思う</li> <li>・夜市のある時、疲れた日常の中で『「おかえり」と出迎えてくれる気がする』と言う駅利用者の声がある</li> </ul>			
	悪かった点	<ul style="list-style-type: none"> <li>・再開発にどうつなげていくか不透明な部分も多い</li> <li>・「圏域の拠点」とする視点がずれていないか</li> </ul>			
	提案・要望点	<ul style="list-style-type: none"> <li>・金曜市の継続が重要。(地元出店者への支援を)</li> <li>・ほづみ夜市を含め、集客イベントをさらに増やすと良い</li> <li>・周知や広報の仕方も工夫が必要</li> <li>・いろいろなアイデアを寄せて、更なる動きを見せてほしい</li> <li>・道路等の整備とかもっと使いやすい駅にすべき(駅前の土地の有効活用)</li> </ul>			
	主な質疑とそれに対する回答	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ほづみ夜市への出店店舗数は。そのうち市内で経営している店舗はどれくらいか。また、空きスペースの活用事業について、どのようなお店が活用したか。</li> <li>⇒ 第4回は30店舗、2日間開催の第5回は25店舗(1日目)、27店舗(2日目)。このうち、おおよそ6~7割が市内の事業者。空きスペースの活用については、穂積駅北口側にはキッチンカーでの出店、南口側では「駅南金曜日」として野菜販売を行っている。</li> <li>・若い人の意見も聞きながら、空洞化しないよう知恵とアイデアを出して穂積駅周辺が活性化されるよう取り組んでほしい。</li> <li>⇒ 事業の主な目的は「人と人とのつながりの構築による駅の活性化」。将来的なハード整備につながっていくきっかけになればという視点で行っていく。</li> </ul>			

公共交通広域化による穂積駅圏域拠点化構想推進事業

所管 総合政策課

重点施策該当	○	まち・ひと・しごと創生総合戦略該当	基本目標3-(2)公共交通の充実					
施策の内容	<p>・市東部に穂積駅が位置する瑞穂市と、市の南に位置する安八町、これら2市町の人口ビジョンによると、今後2市町とも高齢化が進み、交通弱者が増加することが予想される。高齢者が生涯活躍するまちづくりのためには、将来を見据えた交通対策を考え、関係する市町が連携し将来的に持続可能で効率的な公共交通の実現を目指す。</p>							
主な事業	<ul style="list-style-type: none"> <li>●バック商品開発営業、クーポン券営業、スポンサー獲得営業</li> <li>●観光案内付き路線図作成</li> <li>●2市町公共交通会議運営</li> <li>●運行開始セレモニーイベント実施</li> </ul>	<p>H29全体事業費 9,652千円（うち瑞穂市分 5,151千円） うち交付金 1,850千円（うち瑞穂市分 370千円）</p>						
年度別実施計画	30年度（実績）	事業費(千円)	31(R1)年度（計画）	事業費(千円)	32(R2)年度（計画）	事業費(千円)		
	<ul style="list-style-type: none"> <li>●交流イベントの実施</li> <li>●バック商品開発等営業</li> </ul>	2,243 324						
目標指標		単位	H27(基準)	H28(実績)	H29(実績)	H30(実績)	R2(目標)	R7(目標)
穂積駅の乗車人数（1日平均）		人	8,803	8,923	9,094	9,240	9,500 (H31)	-
安八温泉の年間入館者数		人	247,000	241,574	234,438	236,211	300,000 (H31)	-
自己評価	目標達成に効果があった	<p>30年4月より運行開始となった路線バス「安八穂積線」の更なる利用を促進するために「飲食店等で割引券として利用できるバス乗車証明書の制作」や「1日乗車券の販売を通じたイベント」の2事業を行った。事業を実施することで、当該路線の沿線住民を中心として、幅広く認知を図ることや今後の利用増加が期待される。また、当該路線が幅広い世代の住民に利用されることで、KPI目標である「穂積駅の乗車人数」や「安八温泉の年間入館者数」の増加に直結する効果が期待できる。</p>						
外部評価	目標達成に有効であった	コメントは別紙のとおり						

総合計画等評価審議会 評価結果

事業	総合戦略	公共交通広域化による穂積駅圏域拠点化構想推進事業		担当課	総合政策課
評価	有効であった	10件	71%	評価 まとめ	有効であった
	有効とはいえない	4件	29%		有効とはいえない
	欠席	0件			
コメント	良かった点	<ul style="list-style-type: none"> <li>・現状のバス路線を精一杯活用し運用している</li> <li>・割引券など、バス利用者だけでなく地元のお店にも有効</li> </ul>			
	悪かった点	<ul style="list-style-type: none"> <li>・広域化のメリットが今ひとつ感じられない</li> <li>・費用対効果として安八穂積線は必要か疑問を感じる</li> <li>・安八温泉へのリピーターがどれだけあるのかわからない</li> </ul>			
コメント	提案・要望点	<ul style="list-style-type: none"> <li>・周辺自治体とwin-winの関係性を保ち、駅のある市としての役割（交通インフラ整備）の方向性を見出す</li> <li>・割引券などにより、市民に活用してもらえるバスにしていけるとよい</li> <li>・利用者数と運行収支の関係をシビアに見極める必要あり</li> <li>・瑞穂市と安八町それぞれの経済効果がどの程度あったか把握が必要</li> <li>・交通弱者や高齢者にとっての送迎対策（タクシーチケットなど）を考えてほしい</li> <li>・高齢者に住み良い環境、と同時に通勤通学者の声を聴き、利用者の増加をはかってほしい</li> <li>・高齢者のほか、免許を取得できない障がいのあるかたのサポートになる公共交通の実現であってほしい</li> </ul>			
	主な質疑とそれに対する回答	<ul style="list-style-type: none"> <li>・駅周辺や市内ばかりではなく、大きい範囲（広域）での利便性を考えてほしい ⇒昨年度は、手薄だった穂積駅から南へ向かう安八穂積線の運行を開始した。北へ向かう大野穂積線や市内を走るみずほバスなど、現行のダイヤを基本としつつ乗降調査なども行いながら利便性の向上に努める。</li> <li>・安八穂積線は、瑞穂市の利益やメリットがない路線に感じるが如何 ⇒みずほバスが運行していない市内のエリアをカバーすることや、南側からの穂積駅へのアクセスにより、穂積駅圏域に人を集めるといった目標のもと取り組んでいる事業である。</li> <li>・観光の視点も入れつつ、あらゆる面から事業の中味を見直し、進めていってほしい ⇒費用対効果も考え事業を推進していく。また、安八町との協定に基づき、市の財政負担も極力減らしながら、市民の皆さんの足として利用してもらえる運用が必要と考えている。</li> </ul>			